

.....

(株) ぜろばこ(<https://zerobaco.co.jp>) は、UiPath を使い、
お客様ご自分又は組織内で自力で運用する自動化やデジタル化の実現をサポート致します。
さらに、ご要望があれば、
組織戦略にリンクする目標管理と RPA の連携についてもサポート致します。
※連絡先： inform@zerobaco.co.jp

※ **CheckReturnedMail** という当機能は、

弊社ウェブサイトからダウンロードできる **SendOutLookMail** 機能(プロセス)を使い、Outlook メール自動送信を行った後、送信済のメールのなかで、宛先に届かずリターンされたメールを抽出する為のサンプルプロセスです。

※ 実行時には、異なる PC 環境により、望ましい結果にならない可能性もあります。

.....

※ **CheckReturnedMail** プロセスに該当する UiPath のパッケージファイルは、**SendOutLookMail** プロセスをダウンロードした際に既に含まれているので、ここでは不要。

1. 「当機能のシナリオ」

- ・ 既にダウンロードし実行していた、複数のユーザー(メールアドレス)への自動メール送信機能：SendOutLookMail プロセスの実行結果ファイル(ダウンロードフォルダ内の SendOutLookMailyyyyMMddHHmmss.xlsx。以下、送信済一覧ファイルという。)から、送信済の宛先メールアドレス一覧情報(宛先メールアドレス・送信日付・送信結果)を読み込む。
- ・ 上記送信済の宛先にメールが届かず、同 PC 内の Outlook の受信トレイに、リターンされてきたメールがあったら、それを読み込む。
 - ※ 受信トレイへの検索時間は、量によってはとても時間がかかってしまうことがあるので、リターンされてきたと思われるメールのなか、送信済一覧ファイルと関連するメール全てを、受信トレイから[Returned]フォルダ(要作成)にコピーし、送信済一覧ファイル内の送信情報と、[Returned]フォルダ内のリターンされてきたメールを比較する上、その結果情報を抽出する。
- ・ 送信済一覧ファイルを開き、最終的に宛先のメールアドレスまで届かなかったメールに、マークを付けて判るようにする。

2. 「動作環境」

- ・ Windows10
- ・ Desktop Outlook、Excel
- ・ UiPath Studio 又は Robot のインストール(2022 年 11 月以降のバージョン)

※ 当機能の実行後、送信先のメールで表示される送信元情報は、事前に設定されている Outlook の規定(Default)のアカウント情報となる。

3. 「実行前の前提条件」

- ① 当プロセス(**CheckReturnedMail**)を実行するには、**SendOutLookMail** プロセスを実行した後にリターンされて

きたメールがある際に、そのメールを確認する為の用途である。

- ② SendOutLookMail プロセスと同様に Outlook の規定(Default)アカウントが使われる。

4. 「試し方の簡易説明」

※ 以下作業手順は、SendOutLookMail プロセスを実行した同 PC 内で全て行う

- ① **SendOutLookMail** プロセスを実行後、生成された **SendOutLookMailyyyyMMddHHmms.xlsx** を確認する(ダウンロードフォルダ内)。
- ② **MyDocument** フォルダ¥uipathmail¥returncheck¥フォルダを作成し、同フォルダ内に上記①のファイルをコピーする。(※同フォルダ内には、必ず 1 個の Excel ファイルのみおく。複数あっても 2 個目からは処理しない。)
- ③ **Outlook** を開き、規定のアカウント名の直下に**[Returned]**フォルダを作成する。
※フォルダ内のメール件数により実行所与時間が長くなることや、重複チェックを防ぐ為に、処理が完了したら、該当メールは [Returned]フォルダ内から削除することを推奨。
[Returned]フォルダ内のメールは 1000 件を超えないようにすることを推奨。
- ④ **Outlook** の規定アカウント名直下の受信トレイのなかで、(上記①の送信一覧に基き)リターンされてきたメールがあれば、それを全て、[Returned]フォルダ内にコピーする。
- ⑤ 同 PC に UiPath Studio 又は、Robot を設置し、既に使っていた**[SendOutLookMail.xxx.nupkg]**を使い、**CheckReturnedMail** の該当する新しいプロセスをの設定の上、**CheckReturnedMail** を実行する。
※詳細は、5 - 1.「実行方法」を参照。
- ⑥ 実行後の情報については、同 PC のダウンロードフォルダ内で、以下のファイルを開き確認する。
 - ・ **CheckReturnedMailyyyyMMddHHmms.xlsx** 又は、
 - ・ **CheckReturnedMailyyyyMMddHHmms.txt**

5. 「詳細説明」

5 - 1. 「実行方法」

※ 当機能は、UiPath インストール済の PC で、UiPath 製品が使えるユーザー向けである。

※ 既に登録されている**[SendOutLookMail.xxx.nupkg]**ファイルを使い、以下方法で UiPath Robot から実行。

- ㊦ オーケストレーターにログイン後、テナント内の左側メニューの MyWorkspace 又は(ロボット PC と接続している) 特定フォルダを選択した後、MyWorkspace 又は、該当特定フォルダ内の Automation メニュー-> Process メニューを押下。プロセスの一覧画面上で、[Add Process]ボタンを押し、**CheckReturnedMail** プロセスを作成する(パッケージは、すでに登録されている**[SendOutLookMail]**を選択し、エントリーポイントは、**CheckReturnedMail**を選択する。Process Details の Display Name 欄には、**必ず CheckReturnedMail を入力し作成する**) と、実行できる状態(プロセス)になる。
- ① 実行は、オーケストレーター画面上で Automation メニュー-> Job か Triggers メニューを使い Unttended Robot として実行するか、PC 側の UiPath Assistant 画面を開き **CheckReturnedMail** プロセスをクリックして実行する。

5 - 2. 「実行後の情報の確認」

- ① 実行 PC のダウンロードフォルダに生成される
"CheckReturnedMailyyyyMMddHHmms.xlsx"で確認可能。
- ① 又は、予想外のエラー発生時には、実行 PC のダウンロードフォルダに
"CheckReturnedMailyyyyMMddHHmms.txt"が生成される場合もある。

※ 実行後の宛先に届いているか否かの結果が確認できるとはいえ、100%担保するものではない。

5-3. 「参考：開発環境」

- ※ UiPath 22.10.x バージョンのモダンデザイン使用
- ※ 使用している Activities Package バージョン
- ※ 使用している Activities Package バージョン
 - ㊦ UiPath.System.Activities v22.10.4
 - ㊧ UiPath.Mail.Activities v1.18.2
 - ㊨ UiPath.Excel.Activities v2.16.2